



地域交流研究センター4部門活動報告

地域は、人びとが生まれ育ち、自然とかかわりながら暮らし、文化と歴史を刻みつづけている現場です。そこには、自然・人間・社会のあり方を問い直す手がかりがあります。地域交流研究センターでは、4つの部門での活動を通して、地域全体をミュージアムととらえる「つるフィールド・ミュージアム」構想を推進していきます。ここでは4部門の4月の活動について紹介します。

共生教育部門

第1回「文大ボランティアフェス」を開催

4月10日に都留市社会福祉協議会と協働で「第1回 文大ボランティアフェス」を開催し、市内のボランティア団体18団体が参加しました。当日はたくさんの新入生が参加し大盛況なイベントとなりました。



地域交流研究センターその他の活動

つるフィールド・ミュージアム活動説明会

新棟を拠点に行うビオトープ整備活動、都留の自然や文化を記録するタブロイド誌『つるフィールド・ミュージアム瓦版』編集活動、都留文科大学前駅展示制作活動の参加者募集説明会を開催しました。



地域交流研究センターイベント情報

いきものかんさつは面白い！

【対象】小学生とその保護者 【定員】10組（持ち物あり）

「つるフィールド・ミュージアム」の周辺を散歩しながら、昆虫や植物など生きもの観察をします。また、ムササビやニホンリスなど身近な動物たちのおもしろさも紹介します。

5/25（日）
10:30～12:00

介護予防教室「転ばぬ先の杖」

【対象】40代～70代 【定員】20名（持ち物あり）

介護予防のためには、体づくりがとても大切です。動ける体を作るためには、どのような活動をどれくらい行えばよいのか、自宅でもできる運動を実践的に伝えます。

6/20（金）
16:30～17:30

親子で作ってあそぼう『さくしゴマ』！

【対象】小学生とその保護者 【定員】20組

コマの土台にさまざまな色や図形を描いて、手作りの錯視コマを作ってみましょう。どんな形が見えるかな？コマをまわして出てくる色や形を観察しましょう。

7/26（土）
10:00～12:00

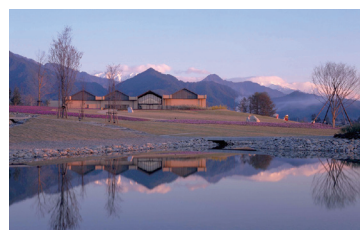
参加希望のかたは都留文科大学 HP 申込フォームから

【お問合せ】都留文科大学 地域交流研究センター（つるフィールド・ミュージアム内）
Mail: ckouryu@tsuru.ac.jp HP: <https://www.tsuru.ac.jp> 9:00-17:00（日・祝 休館）

PICK UP

新棟「つるフィールド・ミュージアム」の建築について

「つるフィールド・ミュージアム」は内藤廣建築設計事務所によって設計されました。内藤廣建築設計事務所は、高知県高知市の牧野富太郎記念館や長野県北安曇野郡松川村の安曇野ちひろ美術館などいくつもの美術館や博物館を手がけ、これまで数多くの賞を受賞されてきました。その土地の景観をいかした建物で、居心地の良さやその建物が果たす役割などを感じさせる建築ばかりです。つるフィールド・ミュージアムでは、木製のルーバーがつくる回廊テラスが特徴的で、半屋外の空間は光の射し方によって変化し建物に柔らかな表情を付け加えます。ここは外と内とをつなぐ縁側のような役割を担い、従来の博物館とは異なり野外へ私たちを誘います。人と人、人と自然が出会える建物です。



安曇野ちひろ美術館 ©Naito Architect & Associates



牧野富太郎記念館 ©Satoru Mishima



「楽しむ」、「学ぶ」、「つながる」

「つるフィールド・ミュージアム」は、地域（フィールド）の自然や人びととの出会いを楽しみ、生きものや人との交流を通して学びを深め、新たな人間関係を創造する拠点です。それらを実現するために、新棟のテーマを「楽しむ」、「学ぶ」、「つながる」としました。建物を取り囲むように配置されたテラスには「まちの縁側」としての機能をもたせ、生きものとの交流が楽しめる空間があります。木質を基調としたあたたかみのある室内など学びを支える環境も整えています。

多世代交流スペース（展示コーナー）

「野外へ誘う」をテーマとしたスペースです。地域の自然や文化に触れるきっかけとなる展示で、学生と市民による定期的な展示替えを行います。富士急行線都留文科大学前駅の駅舎でも「つるフィールド・ミュージアム」の分館として展示を行っています。



テラス

木製のルーバーが特徴で、時間や季節とともに移り変わる木漏れ日を楽しむことができます。雨天でも生きものとの交流が楽しめます。誰もがくつろげる椅子とテーブルを設置します。建物の内と外をつなぐ空間です。



資料室

1980年代、全国に先駆けて都留文科大学で「フィールド・ミュージアム」、「自然博物館」を構想した大田堯元学長や今泉吉晴名誉教授の貴重な資料を中心に収蔵します。収蔵した資料の研究とデジタル・アーカイブを充実させ、教育資源として有効な活用をめざします。



2階テラス

三つ峠の稜線や四季を通して都留の美しい風景が楽しめます。このテラスでは、実のなる植物を育て、「食べられる景観」をつくります。



調理室

最新のIH調理機器を備えた衛生的かつ安全な調理室で、栄養や食材の特性を踏まえた調理操作を段階的に学び、食への理解と生活に活かす実践力を養います。



märchen

調理室「メルヘンキッチン」

この教室の整備にあたりサンドイッチハウス「メルヘン」を運営する（株）メルヘン社長の原田純子様からの寄附をいただいたことから愛称を「メルヘンキッチン」としました。

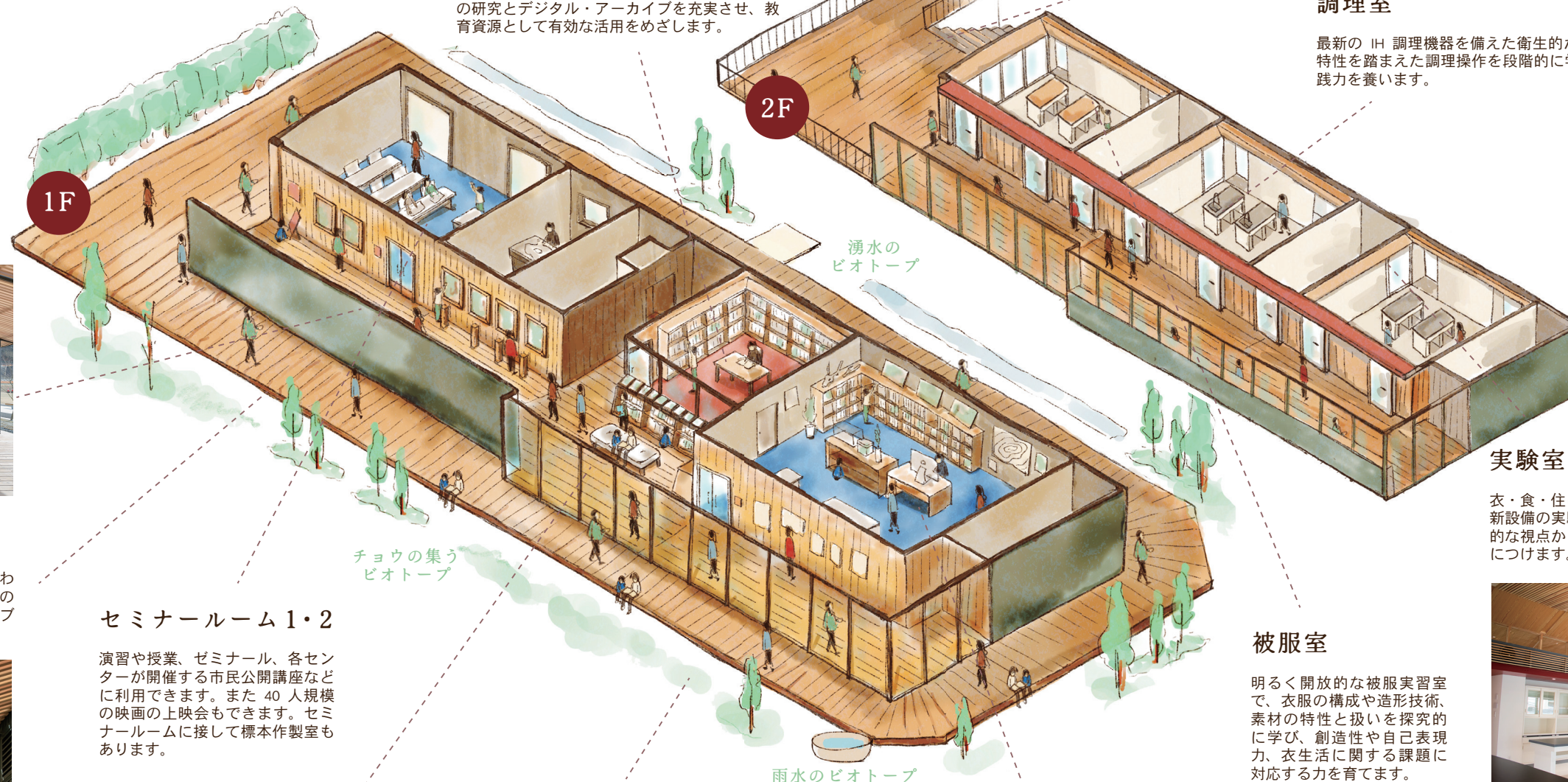
実験室

衣・食・住に関する複合的な生活課題を扱う最新設備の実験室で、理論と実践を統合し、多面的な視点から暮らしを科学的に探究する力身につけます。



被服室

明るく開放的な被服実習室で、衣服の構成や造形技術、素材の特性と扱いを探究的に学び、創造性や自己表現力、衣生活に関する課題に対応する力を育てます。



セミナールーム1・2

演習や授業、ゼミナール、各センターが開催する市民公開講座などに利用できます。また40人規模の映画の上映会もできます。セミナールームに接して標本作製室もあります。

ライブラリ（図書コーナー）

室内での疑問を野外で確かめてみる。野外での疑問を調べてみる。室内と野外を行き来しながら学びを深める図鑑や絵本、標本があります。生きもの観察会や学生による「読み語り」も行います。



ビオトープ（生物空間）

私たちは生きものもコミュニティの大切な一員と考えています。チョウやトンボが舞い、生きものの賑わいが世代をこえて楽しめる空間を育てていきます。雨水や湧水を利用した多様な水辺環境も楽しめます。



地域交流研究室

「つるフィールド・ミュージアム」の活動の成果を互版やニュースレターなどの編集や展示として情報を発信します。また資料室の資料研究やデジタル・アーカイブの作業も行います。このほかに事務局と研究室も入ります。

